

# 発達教育学とは

本専攻の掲げる発達教育学とは、子どもの発達援助を基本としながら、それらを正しく導くために必要な子ども理解とその教育的プロセスを学ぶことにあります。人間発達そのものを支援・促進する心理、教育に関する高次の教育・研究を主軸とします。

# 発達教育学専攻のご紹介

発達教育学専攻は、教育学分野・心理学分野・特別支援教育学分野において、高度な教育観と正しい人間理解に基づいた教育、発達援助に関する精深な知識と技術を持ち、卓越した教育技術を発揮できる力の習得を教育理念としています。

発達教育学を学びたいと考える人、現職の幼稚園教諭、小学校教諭、保育者のキャリアアップ、また保育園や幼稚園の設立、園長を目指す人達を対象に、豊かな人間形成に携わる専門的教育者・職業人の育成を目指します。

# カリキュラム

<b>基礎科目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達教育学特論</li> <li>発達教育学研究法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達教育学講究Ⅰ</li> <li>発達教育学講究Ⅱ</li> </ul>
<b>基幹科目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育学特論</li> <li>学校教育特論</li> <li>教科教育学特論</li> <li>国語教育研究</li> <li>身体教育学研究</li> <li>音楽教育学研究</li> <li>教科教育実践と指導法の改善</li> <li>学級経営と授業改善</li> <li>教育統計法特論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達教育学実践演習</li> <li>発達心理学特論</li> <li>教育心理学特論</li> <li>学校心理学特論</li> <li>発達臨床心理学特論</li> <li>教育相談・カウンセリング実践演習</li> <li>特別支援教育特論</li> <li>小児医学特論</li> <li>キリスト教と人間</li> </ul>
<b>関連科目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科教育研究</li> <li>社会科教育研究</li> <li>表現教育研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導・キャリア教育(含実習)</li> <li>教育評価・心理検査(含実習)</li> </ul>
<b>特別研究科目</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達教育学特別研究Ⅰ</li> <li>発達教育学特別研究Ⅱ</li> </ul>	

修了要件：基礎科目必修8単位、基幹科目必修2単位、特別研究必修4単位、基幹科目及び関連科目より18単位以上、合計32単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること

# このような方にお勧めします

- ・発達と保育・教育について、保幼小中の連携について学びを深めたい方
- ・幼稚園・小学校教諭専修免許状の取得を目指す方
- ・現職のままじっくり学びたい方

※短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生等の場合、本大学院の入学資格審査により受験可能な場合があります。

# 長期履修制度について

- ・3～4年間で履修を計画します
- ・学費は2年分です
- ・社会人入試の方が対象となります

本専攻では長期履修制度を設けております。出願時に3年か4年のいずれかを修学期間として選択し、1年あたりの履修単位数を少なくすることで、限られた時間の中でもしっかりと研究に取り組むことを可能としております。

この制度を利用することで、現職にありながら大学院においても学びたい方、2年間という標準修学年数よりも時間をかけてじっくりと研究に取り組みたい方など、様々なスタイルに対応することが可能です。

※詳細はお問い合わせください。


# 特色のある授業



発達教育学講究Ⅰ・Ⅱ

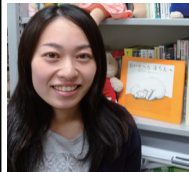
大学院生・全教員が参加し、教育学、心理学、特別支援教育学等さまざまな専門分野から話題を提供し、ディスカッションを中心に進めます。様々な視点を確認し、発達教育学における自らの研究の位置づけを確かなものとしながら、発達教育学的研究を行うための基盤を醸成することを目的としています。

# 在学生・修了生のコメント



私は福岡女学院大学を卒業した後、他大学の大学院で幼児教育を学びました。修士課程を修了し、保育士として保育の現場で働いていくうちに、ストレートマスターの時には考えられなかった「保育者が子どもに与える影響」について学んでいきたいという思いが強くなり、再度大学院を受験しました。一昨年前に女兒を出産し、現在は仕事、子育てをしながら大学院で学んでいます。修士論文では、「保育者の関わりが幼児の自己制御機能に及ぼす影響」について研究し、保育のあり方について検討していきたいと考えています。

2018年4月入学生



私は大学卒業後、保育園に勤務しました。子ども達と過ごす中で、子ども理解や、職員、保護者と連携することの重要性を感じました。また子どものことを思えば思うほど悩みが深くなり、学び直したい気持ちを持ち、大学院への進学を決めました。修士論文では保育士の葛藤をテーマに、保育者の子ども個々への対応とクラス全体をみることや職員間連携の難しさが保育観の違いや組織の特徴などによることを明らかにし、省察が緩衝要因の一つとなることを示唆しました。修了後は保育者養成・教員養成の大学で教鞭をとっています。学生自身の気づきや学ぶ楽しさを感じられることを意識し、保育者・教員の養成に携わっています。

2018年3月修了生

# 主な施設

研究活動を支える施設として院生室や子ども発達センターなどを備えています。

院生室

子ども発達センター



# 教員紹介 (2019年4月現在)

坂田 和子	教授	(発達心理学/教育臨床心理学)
角南 良幸	教授	(健康・スポーツ科学/身体教育学)
高原 和子	教授	(体育学)
西 晃央	教授	(統計学/数学教育学)
藤田 一郎	教授	(特別支援教育学/小児医療)
松崎 保弘	教授	(特別支援教育学/知的障害児の教育)
吉田 尚史	教授	(教育学/保育者・教師教育)
赤間 健一	准教授	(教育心理学/教授・学習心理学)
福島 さやか	准教授	(音楽教育学)

内田 伸子 客員教授 (発達心理学/認知科学)  
お茶の水女子大学 名誉教授